

平成 29（2017）年度・福島県受託事業

二本松市鷹二区 実施活動報告

大東文化大学 島田ゼミ

（目次）

- 1、ゼミの目標
- 2、鷹二区の状況
- 3、活動経過
- 4、活動結果
- 5、全体のまとめ

1、ゼミの目標

我々島田ゼミは、教員の専門分野である地方自治を勉強するゼミであるのだが、自治の制度を学んでいくというよりも自治の実態を知り、学ぶといったことを目標としている。地域の課題や問題点を探り、その解決法を模索し考える。また、より住みやすい地域にするために必要なことを見つけ提案していくといった学習スタンスをとっている。実際に問題のある地域に赴き地域の方々から生のお声をいただいたりしながら、地域の魅力を発見する活動を続けてきた。これまでも、福島県飯舘村、新潟県佐渡市、埼玉県ときがわ町などでゼミ活動を行ってきた。平成 26（2014）年度からは、二本松市東和地区に訪問している。平成 28（2016）年度には、福島県の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を受託したことから、さらに地域を特定し二本松市東和地区の鷹二区（鷹二集落）において「地域の資源（宝）を探る」活動を行おうとした次第である。

本ゼミの活動の特徴は、地区においてボランティア活動を行うところにある。事前に地域のことを知るための文献調査を行うのは当然なのだが、実際に地域において地域住民のためになんらかのボランティアを行うことをモットーとしている。なぜなら、「地域の資源を探る」活動は、時として「よそ者の独りよがり」になりがちであり、地域にとっては「余計なお世話」となりかねない。はじめは「地域の人たちが必要としていること」に協力することから、住民の意向に寄り添いながら進めることが大切であると考えているからである。

2、鷹二区の状況

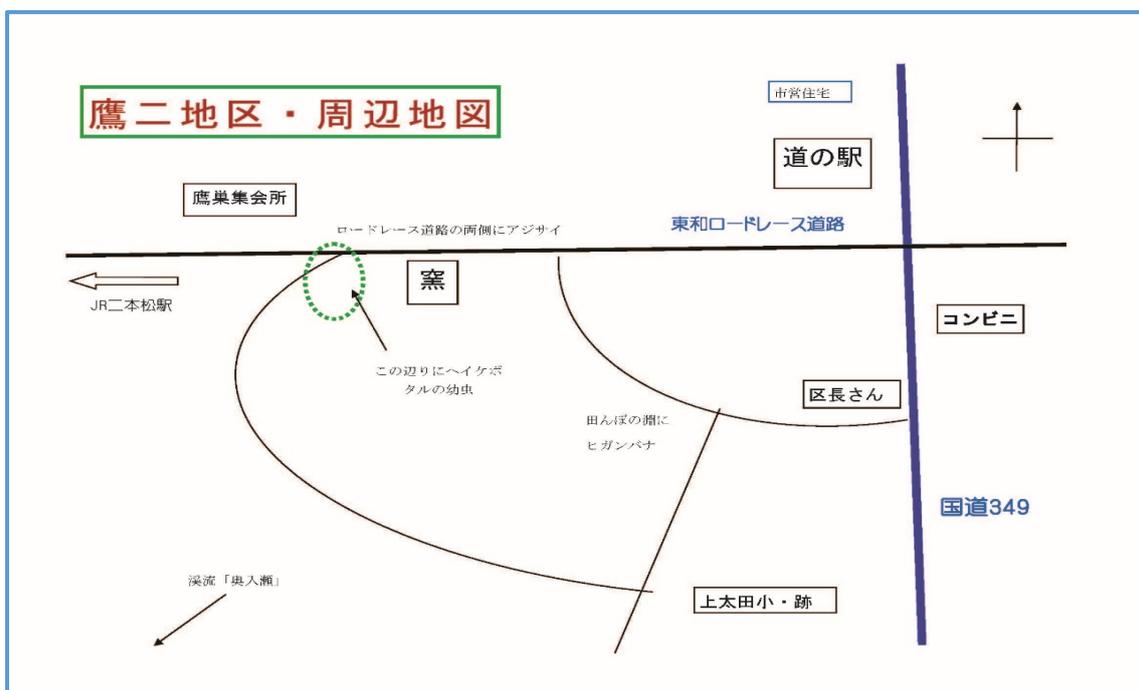
支援事業の対象となった二本松市鷹二区は、二本松市の東に位置し、原発事故による全町避難地域となった浪江町の西にあたる。二本松市の旧東和町は、原発事故の際に浪江町の住人たちが多数避難した場所であり、今でも浪江町立小中学校は東和地区内にある。そうした状況からわかるように、東和地区自体が原発事故による風評被害を受けている地区でもある。

JR 二本松駅からは、車で40分。東京から地区を訪問する場合は、二本松まで各駅停車だと約4時間、そこから貸し切りバスやレンタカーで移動することになる。



※いずれもマピオンより引用

鷹二区の人口は、現在 75 人。世帯数は 34 世帯だが、このうち二本松市営・芦堰団地の 11 世帯が含まれている。市営団地世帯は、他の地区から移り住んだ方が多く、この地区との繋がりは薄い。団地を除く世帯の職業は、農家 8 戸、自営業 10 戸、会社員等 5 戸で全 23 戸のうち兼業農家は 9 戸。地区の高齢化率は約 50%で、小学生は一人だけという状況にある。



※島田ゼミ作成

3、活動経過

島田ゼミが平成 29 (2017) 年度に行った鷹二区における活動経過は以下のとおりである。
都合 3 回、同地区での活動を行った。

(1) 1 回目 (平成 29 (2017) 年 6 月 24 (土) ~25 日 (日))

・参加者 2 年生 2 人 3 年生 3 人 教員 計 6 人

・ 6 月 24 日 (土)

12 : 30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」着 昼食

13 : 00 ~ 14 : 30 鷹二区集落・視察 竹林などの視察

15 : 00 ~ 16 : 30 鷹二区の皆様と今後の打ち合わせ 夏合宿、窯修復、竹林、柿利
用など



(住民の方との打ち合わせ)

17 : 30 道の駅から宿へ

18 : 00 ころ 農家民宿「jazz は 4 ビート」に到着

6 月 25 日 (日)

8 : 45 宿出発・道の駅へ

9 : 00 ~ 12 : 00 東和町内の視察 候補 : 木幡山隠津島神社 + ワイン工場 + 有機肥料工場

12 : 00 昼食

14 : 00 道の駅出発

15 : 15 JR 二本松駅解散

(2) 2回目 (平成 29 (2017) 年 9 月 6 日 (水) ~8 日 (金))

・参加者 2 年生 13 人 3 年生 13 人 教員 計 26 人

・9 月 6 日 (水)

12 : 30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」着 昼食



(住民の方々との顔合わせ)

13 : 30 鷹二集落の話

14 : 00 窯作業・竹林確認



(竹林の確認)



(窯作業)

16 : 00 鷹二区住民との交流会 鷹巣集会所



18 : 00 宿へ 木幡山隠津島神社参宿所

・9月7日(木)

9 : 00 ボランティア活動開始 窯作業・竹林・柿レシピ

12 : 00 昼食 戸沢住民センター



(昼食&柿レシピの試食)

13:00 ボランティア活動再開

17:00 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」集合
ホームステイ宅へ

・9月8日(金)

8:30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」集合

9:00-12:00 ボランティア活動 窯作業・竹林



(窯作業)



(竹工作)

12:00 昼食 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」

13:00-14:00 反省会 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」

15:30 JR 二本松駅解散

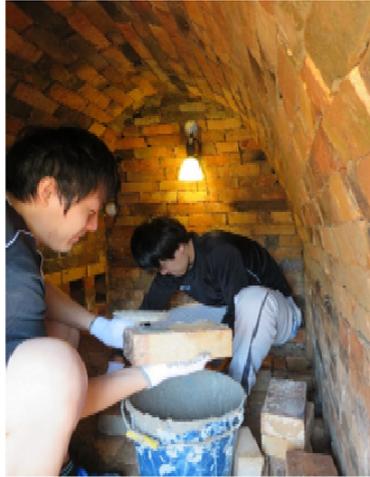
(3) 3回目(平成29(2017)年11月2日(木)~4日(土))

参加者 3年生6人 教員 計7人

・11月2日(木)

12:30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」集合 昼食

14:00-17:00 ボランティア活動 窯作業



(11月合宿の作業風景)

17:30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」集合 ホームステイ宅へ

・11月3日(金)

8:30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」集合

9:00 ボランティア活動開始 窯作業

12:00 昼食

13:00-17:00 窯作業 再開

17:30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」集合 ホームステイ宅へ

・11月4日(土)

8:30 「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」集合

9:00-12:00 窯作業



12：00 昼食

13：00－14：00 窯作業 再開



(窯完成)

15：30 JR 二本松駅解散

4、活動結果

2017年度の鷹二区における島田ゼミの主な活動は、東日本大震災で崩壊した登り窯の修復と、前年度の提案として挙げた竹林と柿の利用方法を中心としたものだった。

鷹二区の登り窯である三渡窯（みわたりよう）と呼ばれる窯は、地域住民である S さんが所有する窯である。東日本大震災の際、震度 6 強の地震に襲われ、4 連の登り窯であったこの窯は崩れ去ってしまう。福島県では数少ない登り窯であったが復興の対象にはならず、原発事故のため燃料となる木材を地域から調達することも難しくなってしまったこともあって放置されていた。

そこで島田ゼミは、昨年から本格的に窯の再建にあたることにした。窯の再建を中心に地域の皆さんと数回にわたって話し合いを行い、6月の事前調査では代表 6 人が地域を訪問し鷹二区の区長さんと窯の所有者である S さんをはじめとする住民の皆さんから、地域の様子を伺った。話し合いでは竹林や柿の利用法のことも挙がり、この話を基に、柿、竹、窯、と三つのことを考え、9月のゼミ合宿のとき、ゼミ生全員による同地区における活動を行うことにした。

まず一つ目は、窯である。レンガを積むための耐火モルタルを窯の所有者 S さんに作ってもらい、窯づくりを行った。7人で3チームを作り各々の持ち場で作業となる。モルタルを塗ることは慣れてきても、レンガを積むことはかなり難しい作業であった。さらに耐火レンガは重く、腕にも負担がかかり、メンバーのほとんどが筋肉痛となるなどして窯の再建の大変さを身に染みて感じた。数ミリでもズレると大きなズレにつながってしまうことがあり、神経を使う作業となった。9月の合宿では完成には持っていけず、11月に再度訪れて作業を再開した。11月での作業は、窯だけに集中して行われたこともあり、98%の完成に持っていくことができた。残りの2%は、窯の所有者のSさんがやるということであったので、我々の目標である窯の再建という目標は達成されたと言える。

二つ目は、柿の利用法である。柿レシピを考えるということで、柿を使ったデザートを作ることにした。柿は食べる人が少ないということから、大量に腐らせてしまうことが問題となっていた。今回の活動でたくさんある柿を使って何かできないかという新たな試みが始まった。結果は上手くいった。婦人会の方々の助力もあってスムーズに作業が進んだ。出来上がった作品は、ドーナツ、蒸しパン、ゼリー、ワッフル、ジャムを無事に完成させることができた。ゼミメンバーや協力していただいた住民の皆様から「おいしい」という評価をいただいた。

三つめに、竹林である。竹を切るために旧上太田小学校へ向かった。午前中に必要な数だけ竹を切ることにしたのだが、当日はあいにくの雨で、午前中に切り終わるかとても不安であったが、住民の方々の協力のおかげで午前中に切り終える事ができ、さらに予定していた時間よりも早く切り終えることができた。午後の竹工作には、「道の駅・ふくしま東和あぶくま館」の工作室を使用させてくれるというので、使用させていただいた。ブルーシートを床の上に敷き、その上での作業となる。作る作品は、「花瓶」「はし」「くつべら」「行灯」でさらに住民の方からのアイデアをいただき、「花さし」（花さしや蒸し器にもなるもの）を工作することにした。実際に作ってみると意外と難しく、細かい作業が必要になってきた。しかし、予想よりもなかなか実用性のあるものが出来上がった。次の日には最後の仕上げにニスを塗ったり、紙やすりで切った所を削ったりした。でき上がった作品は、道の駅の方々や住民の方々に見ていただき「よくできているね」と評価をいただいた。出来上がった作品は原則寄付するという島田ゼミの方針で道の駅に、自由に使用していただくこととなった。

5、全体のまとめ

実施活動の総合的な評価としては、窯、竹、柿と成果を残すことができた。特に窯は昨年のプロジェクトを引き継いでのものであったので、この達成感は非常に大きなものとなった。島田ゼミの活動は、鷹二区の方々が東文化大学島田ゼミを受け入れてくださったから達成することのできたプロジェクトであり、地区の方々には本当に感謝の気持ちしか

ない。今年のゼミ活動はいくつもの作業をさせていただくことになり、地区の方々には大変なご苦勞をおかけすることとなってしまい、あらゆる場面で助けていただいた。たくさんの方の助けがあってこそこのゼミ活動だと再認識させていただき、我々島田ゼミ生にとって二度とない貴重な体験をさせていただいた。